

近隣住民3世代に デジタル技術指導

潮来高

デジタルを活用し地域とのつながりを深めようと、潮来市須賀の県立潮来高（高野光章校長）は7月29日、近隣住民を招いた「3世代交流デジタル・ミニフェスタ」を開いた。高校生がサポートしながら、地域の小学生や高齢者が仮想空間でのまちづくりや人型ロボットと対話し、最新技術を通じて交流した。

同フェスタは、文科省の「DX（デジタルトランスフォーメーション）ハイスクール」に昨年から指定されたことから同校が取り組んでいる事業。小学生を対象とした昨年に続き、今年

高校生のサポートを受け、仮想空間でまちづくりに取り組む児童＝潮来市須賀



は高齢者も招いた。

小学生は、インターネット上の仮想空間でまちづくりができるゲーム「教育版マイクラフト」を体験。12人が3班に分かれ、地域ビジネス科3年生に使い方を教わりながら、「動物もいる水族館」や「トロッコ

で観光できるピラミッド」など、斬新な施設をつくっていった。高齢者らは14人が参加。同科2年生と、人工知能が組み込まれているロボット「Pepper（ペッパー）」との対話や3Dプリンターの見学、スマホ講座などで交流した。

児童をサポートした同科3年の前野ひとみさん（18）は「工夫しながら教えることができた。小学生の発想が楽しかった」と振り返った。

（藤崎徹）